

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	美容師科	授業科目区分(基専)	必修科目
授業科目名	美容実習(サロンワーク)	担 当 教 官 名	久保 大樹・柏木 昭彦・山田 英之
対象学生	1年:美容師科	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ(15週)
授業のキーワード	美容業界で仕事をする基本理念を理解し、アシスタント技術を身に付ける。		
授業の概要 及び到達目標	<p>美容業界で活躍するプロに必要な基本理念を理解し、サロンワークに必要なアシスタント技術・知識を身に付ける為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①仕事をする上での身構え・気構え・心構えを身に付ける。 ②良好な人間関係を築く。 ③接客の基本を理解する。 ④チームで仕事をする為に必要な事を理解し行動できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.社会人の基本となるルールとマナーを共有する 2.チームワークとは何かを理解しグラドルールを決定する 3.1週間の学内行動目標を設定し自分が求める結果を考える 4.コミュニケーションの重要性を学ぶ 5.サロンワーク見学① 6.サロンワーク見学② 7.サービス業の成り立ちと在り方を学ぶ 8.美容室特有のサービスの価値を学ぶ 9.トレンド・撮影実習① 10.トレンド・撮影実習② 11.トレンド・撮影実習③ 12.トレンド・撮影実習④ 13.相モデルで作品作成 14.相モデルで作品作成 15.試験解説 		
準備学習	授業内の疑問は積極的に確認すること。 毎授業の復習を実施し、次回授業に備える。		
教科書・教材等	配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	実習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	美容業界で仕事をする上でアシスタントの基本は重要です。本講義は業界で活躍する人材に必要な基礎の技術・知識をを学ぶだけではなく、お客様が何を求めているか、活躍する人材に大切な事など、業界の今をお話したいと考えています。サロンワークをイメージして授業に積極的に取り組んで下さい。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	美容師科	授業科目区分(基専)	必修科目
授業科目名	美容実習(シャンプー I)	担 当 教 官 名	清原 和哉・柏木 昭彦・山田 英之
対象学生	1年:美容師科	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授 業 回 数	30コマ(15週)
授業のキーワード	シャンプーの基本的手順と、お客様への気配りを習得する。		
授業の概要 及び到達目標	<p>サイドシャンプー及びバックシャンプーの正しい姿勢と基本手順とお客様への接客マナーを習得する為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①シャンプーの正しい施術姿勢ができる。 ②シャンプーの基本手順を身に付け時間内にできる。 ③お客様への正しい接客マナー・接客対応ができる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.接客をする上で、重要な事を理解する器具・用具などの取り扱いを理解する シャンプー前のブラッシング～タオル、ひざ掛け、クロスのかけ方 2.掃除の重要性を理解する バックシャンプーの正しい姿勢と手順を学ぶ① 3.バックシャンプーの正しい姿勢と手順を学ぶ② 4.バックシャンプーの、正しい姿勢と手順を学ぶ③ 5.バックシャンプーの一連動作、ドライの基本 6.マッサージを学ぶ(理論と実習) 7.ハンドブローとマッサージ(実習) 8.サイドシャンプーの、正しい姿勢と手順を学ぶ① 9.サイドシャンプーの、正しい姿勢と手順を学ぶ② 10.サイドシャンプーの、正しい姿勢と手順を学ぶ③ チェックシートでチェックし、改善点を学ぶ 11.ドライ～ブロー基本 12.お客様の受け入れからシャンプーブローの実践① 13.お客様の受け入れからシャンプーブローの実践② 14.お客様の受け入れからシャンプーブローの実践③(60分で仕上げまで) 15.試験解説 		
準備学習	授業内の疑問は積極的に確認すること。 毎授業の復習を実施し、次回授業に備える。		
教科書・教材等	美容実習①・美容技術理論①・配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	実習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	職業人になるという事は、サービスを受ける側から提供する側に移行します。本講義で接客マナーなどを学び、普段の生活の中で自分が受けるサービスを客観的に見て、体感して、自分ならどうするかといったことに意識をしてみてください。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	美容師科	授業科目区分(基専)	必修科目
授業科目名	美容実習(カット&ブロー I)	担当 教 官 名	石井 奈摘
対象学生	1年:美容師科	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ(15週)
授業のキーワード	課題の展開図を理解し正しい姿勢でカットし形にすることができるようになる。		
授業の概要 及び到達目標	<p>カット&ブローの基礎を理解し正しい姿勢で実践できるようになることは美容のプロになるために必須です。下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①展開図を理解し、平面を立体に変換できる。 ②正しいコーミング・シザーの取り扱いができる。 ③正しい姿勢でのカットができる。 ④自分のイメージする作品を形にすることができる</p>		
講義計画・内容	<p>1.カット理論、用具の説明と持ち方 2.ワンリングスカット① 3.ワンリングスカット② 4.ワンリングスカット③ 5.グラデーションカット① 6.グラデーションカット② 7.グラデーションカット③ 8.グラデーションカット④ 9.グラデーションカット⑤ 10.コンテスト対策① 11.コンテスト対策② 12.コンテスト対策③ 13.コンテスト対策④ 14.コンテスト対策⑤ 15.試験解説</p>		
準備学習	<p>頭部の名称を理解しておく。 定期テストは毎授業の内容のまとめとなるので復習をしっかりと行うこと。</p>		
教科書・教材等	美容実習①・美容技術理論①・配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	実習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>カット&ブローを行う上で展開図の理解は重要になります。 展開図の理解と共に正しい姿勢での施術を体に身に付けられるように基本の徹底を行います。疑問点は積極的に確認してください。</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	美容師科	授業科目区分(基専)	必修科目
授業科目名	美容実習(ワインディング I)	担 当 教 官 名	井上 秀浩・六川 直哉・金岡 伶
対象学生	1年:美容師科	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	60コマ(15週)
授業のキーワード	正しい姿勢と巻き方を習得して、タイム内で巻き終える事ができるようになる。		
授業の概要 及び到達目標	<p>国家試験技術の基礎を身に付ける為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①正しい施術姿勢ができる。 ②正しい巻き方ができる。 ③正確なブロッキングができる。 ④正確な引き出し角度とシェープができる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.ウイッグ及び、器具・用具の取り扱いを学ぶ。ブロッキングの説明・デモ 2.正しい姿勢と手順でブロッキングができるようになる。上巻きの説明・デモ 3.上巻きが1本40秒で巻けるようになる。下巻きの説明・デモ 4.センター15分、10ブロック5分、バックサイドデモ 5.センター11分、10ブロック3分、サイドデモ 6.全頭30分 7.中間テスト 全頭30分 8.全頭28分で作成する 9.全頭25分で作成する 10.全頭22分で作成する 11.全頭20分で作成する 12.ブロッキング込み全頭20分で作成する 13.ブロッキング込み全頭19分で作成する 14.ブロッキング込み全頭19分で作成する 15.試験解説</p>		
準備学習	<p>ブロッキングのポイントを理解しておく。 タイムを意識することよりも、正しい巻き方・姿勢を練習すること。</p>		
教科書・教材等	美容実習①・美容技術理論①・配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	実習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>国家試験課題になります。立ち姿勢、コームの使い方、ブロッキングや、ステムなどヘアメイクアーティストを目指す人にも重要な基礎が詰まった講義になります。焦ることなく正確さを重視して授業に取り組んでください。</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	美容師科	授業科目区分(基専)	必修科目
授業科目名	関係法規	担 当 教 官 名	柴田 一輝
対象学生	1年:美容師科	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ(15週)
授業のキーワード	国家試験課題である関係法規を理解する。		
授業の概要 及び到達目標	<p>理容師法・美容師法を中心に、理容・美容の業務に関係の深い法令の内容を勉強し、公衆衛生を担う理容師・美容師の社会的責任を学ぶ為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①法制度の概要を理解し、説明できる。 ②衛生行政の概要を理解し、説明できる。 ③理容師法・美容師法を理解し、説明できる。 ④関係法規を理解し、説明できる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.美容師法①(目的・定義)、②(資格、試験) 2.美容師法③(免許と登録、免許の変更等) 3.美容師法④(美容師の義務)、⑤(管理美容師) 4.美容師法⑥(美容師の施設:届出) 5.美容師法⑦(美容師の施設2:検査等) 6.美容師法⑧(立入検査)、⑨(行政処分) 7.美容師法⑩(罰則) 8.関連法①(生衛法、保健所等) 9.関連法②(関連法その他) 10.美容師法復習① 11.美容師法復習② 12.美容師法復習③ 13.総復習テスト 14.総復習テスト 15.試験解説</p>		
準備学習	<p>授業内の疑問は積極的に確認すること。 毎授業の復習を実施し、次回授業に備える。</p>		
教科書・教材等	関係法規		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>国家試験課題になります。法令特有の言い回しが多いため、分かりにくく興味がわかないと思うかもしれませんが、将来社会に出て美容室に勤めたり自身が経営に携わる場合に役立つはずですよ。 わからない点などは遠慮なく質問してください。</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	美容師科	授業科目区分(基専)	必修科目
授業科目名	衛生管理 I	担当教官名	金岡 伶
対象学生	1年:美容師科	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ(15週)
授業のキーワード	国家試験課題である衛生管理を理解する。		
授業の概要 及び到達目標	<p>公衆衛生全般について勉強し、理容師・美容師として注意を払わねばならない環境衛生や感染症を学ぶものです。また、理容業・美容業に必要な消毒の意義、目的、関連法令に則した実践を学ぶ為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①公衆衛生の概要を理解し、説明できる。 ②保健を理解し、説明できる。 ③環境衛生を理解し、説明できる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.1編 公衆衛生の概要 1節 公衆衛生の意義と課題 2.2節 公衆衛生発展の歴史 3.3節 理容師・美容師と公衆衛生 4.4節 保健所と理容業・美容業 5.2章 保健 1節 保健 6.1編 公衆衛生の復習 7.2編 環境衛生 1章 環境衛生 1節 環境衛生の概要 8.2節 空気環境 9.3節 衣服・住居の衛生 10.4節 上・下水道と廃棄物 11.5節 衛生害虫とネズミ 12.6節 環境保全 13.2編 環境衛生の復習 14.1編 公衆衛生及び2編 環境衛生のポイント復習 15.試験解説</p>		
準備学習	<p>授業内の疑問は積極的に確認すること。 毎授業の復習を実施し、次回授業に備える。</p>		
教科書・教材等	衛生管理		
授業の形式 教育機器の活用	演習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>国家試験課題になります。公衆衛生・環境衛生とは何かを知り、感染症の予防や環境が自然や人々の健康に及ぼす影響を知り、社会の一員として適切に行動できるように学びましょう。</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	美容師科	授業科目区分(基専)	選択・必修科目
授業科目名	就職講座 I	担 当 教 官 名	石井 奈摘
対 象 学 生	1年:美容師科	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ(15週)
授業のキーワード	業界理解を深め業界に必要な人間力を高める。		
授業の概要 及び到達目標	<p>接客業に必要なサービスマインドを養い資格取得を目指す。 美容師・ヘアメイクアーティスト・ブライダルヘアメイクアーティストの業界理解を深め、業界で必要なマインドを身に付け主体的に行動できるようになる為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①業界研究を実施し美容業界の理解し、説明できる。 ②コミュニケーション力を高め、自分から行動できる。 ③普通救命講習を受講し、応急手当の方法を理解する。</p>		
講義計画・内容	<p>1.ホスピタリティ 2.ホスピタリティ 3.ホスピタリティ 4.ホスピタリティ 5.ホスピタリティ 6.ホスピタリティ 7.業界理解 自分の将来の考え直し 8.就職活動の流れの説明・就職希望先の絞り方 専攻別授業の説明 9.自己分析 自分ってどういう人？自己分析 自己PR 長所・短所 10.普通救命講習web講習 11.普通救命講習実技講習 12.履歴書の書き方 13.就職活動の流れの説明 面接・サロンワーク・サロン見学・説明会 14.サロン検索の説明 15.試験解説</p>		
準備学習	授業内の疑問は積極的に確認すること。 ホームページや情報誌等で色々なサロンを自分なりに研究しよう。		
教科書・教材等	配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	演習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	美容師免許を活かして仕事をする為に、職業を理解することは大切です。コミュニケーションやプレゼンテーションといった力を高めていくことを本講義の中では重視していきます。 将来的な面接対策としてまずは自分を知る。 そしてそれをアウトプットできるようになりましょう。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	美容師科	授業科目区分(基専)	必修科目
授業科目名	保健 I	担 当 教 官 名	糟谷 圭吾
対象学生	1年:美容師科	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ(15週)
授業のキーワード	国家試験課題である保健を理解する。		
授業の概要 及び到達目標	<p>頭部、顔部及び頸部を中心に人体の構造、機能について学び、皮膚、毛髪などを科学的に理解する為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①人体の構造や機能について理解し、説明できる。 ②頭頸部を中心に解剖学を理解し、説明できる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.第1編 人体の構造及び機能 第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学 2.第2章 骨格器系 1項・2項 3.第2章 骨格器系 3項 4.第3章 筋系 1項・2項 5.第3章 筋系 3項・4項 6.第4章 神経系 7.第1章～第4章の復習 8.第5章 感覚器系 1項～3項 9.第5章 感覚器系 4項～6項 10.第6章 血液・循環器系 11.第7章 呼吸器系 12.第8章 消化器系 13.第5章～第8章の復習 14.第1編 人体の構造及び機能の復習 15.試験解説</p>		
準備学習	授業内の疑問は積極的に確認すること。 毎授業の復習を実施し、次回授業に備える。		
教科書・教材等	保健		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	国家試験課題になります。これから学ぶ「保健」は「健康を保つ」という意味になります。美容の職務を通じて、人々の精神的、社会的健康に貢献することができる仕事になります。是非意欲的に取り組んでください。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	美容師科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	美容総合技術 I	担 当 教 官 名	福村 純子・小林 結
対象学生	1年:美容師科	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ(15週)
授業のキーワード	JMA3級取得及び、テーマ別ヘアメイクを学び作品撮影する。		
授業の概要 及び到達目標	<p>スキンケアからベースメイクアップと、チーク・ハイライト・ローライトまでの基本技術の過程と仕上がりを学び、JMA3級を取得する。 基本ベースを理解した上で、創造力を発揮しテーマ別ヘアメイクを作成できるようになる為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①JMA3級取得。 ②基礎的フルメイクができる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.JMA3級対策① 2.JMA3級対策② 3.JMA3級対策③ 4.JMA3級対策④ 5.JMA3級対策⑤ 6.JMA3級対策⑥ 7.JMA3級対策⑦ 8.JMA3級対策⑧ 9.JMA3級対策⑨ 10.JMA3級対策⑩ 11.基本のポイントメイク①(アイブロウ) 12.基本のポイントメイク②(アイメイク) 13.基本のポイントメイク③(アイブロウ・アイメイク) 14.基本のポイントメイク④(チーク・リップ・ハイライト・ローライト) 15.基本のフルメイク 試験解説</p>		
準備学習	<p>授業内の疑問は積極的に確認すること。 テキストを事前確認して授業に参加すること。</p>		
教科書・教材等	日本メイクアップ技術検定試験 公式テキスト3級2級・配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	演習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>作品作成を楽しみながら学んでいきましょう。自己作品を撮影し記録に残すことは今後の成長や就職活動にも重要になります。本講義では創作する為にどんな点に意識をしたり、どんなものからイメージ作成をするかなども伝えていきますので意欲的に授業に臨んでください。</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	美容師科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	ヘアメイクアップ I	担 当 教 官 名	日坂 美穂子・石井 奈摘
対 象 学 生	1年:美容師科	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ(15週)
授業のキーワード	基礎的メイクアップとヘアアレンジを理解し実践できるようになる		
授業の概要 及び到達目標	<p>イメージを形に表すことができる想像力と技術力を養う為、本講義では下記に示す内容の到達目標に講義及び実習を進める。</p> <p>また、サービス接客検定試験のテキストを通じて、理解を深め、接客を行う上で求められる資質、専門知識、実務スキルの基本を学びます。サービス接客検定試験3級取得に必要な項目を学び、ホスピタリティマインドの理解と接客マナー能力向上を図ります。</p> <p>①撮影に対応したメイクアップ技法の基礎を理解し、実践できる。 ②作品制作を通してイメージを形にすることができる。 ③作品撮影することにより作品全体の構図やバランスをデザインできる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.アイロン・コテの使い方① 2.アイロン・コテの使い方② 3.アイロン・コテの使い方③ 4.アイロン・コテの使い方④ 5.ヘアアレンジ① 6.ヘアアレンジ② 7.ヘアアレンジ③ 8.ヘアアレンジ④ 9.サービス接客検定対策 10.サービス接客検定対策 11.サービス接客検定対策 12.サービス接客検定対策 13.サービス接客検定対策 14.サービス接客検定対策 15.サービス接客検定対策 試験解説</p>		
準備学習	毎回技術の復習を行い次回授業に臨んでください。反復練習を行い、技術の上達を目指してください。		
教科書・教材等	配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	演習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>メイクアップ、ヘアアレンジを行うことで無限にモデルのイメージを変えることができます。</p> <p>基礎、基本をしっかりと理解し身に付けることが大切です。基本を習得したうえで応用にステップアップしていきますので、疑問はその都度解消していきましょう。</p> <p>また、接客を行う上で求められる資質、専門知識、実務スキル等、お客様に満足いただくサービスを提供するために、専門性の高い美容技術の習得だけでなく、顧客満足度を深める実用性の高い接客スキルを身につけます。</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	トータルビューティー科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	美容実習(カット&カラー)	担 当 教 官 名	久保 大樹・山田 英之
対象学生	2年:美容師コース	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ(15週)
授業のキーワード	仕上がりイメージして作品作成ができるようになる。		
授業の概要 及び到達目標	<p>お客様にふさわしいヘアカラーが提供できるように、技術向上と共に染毛剤・染毛料の性質、毛髪の知識、色彩原理を身に付ける為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①カラー剤の種類とタイプ別の特徴を理解し、説明できる。 ②色の基本を理解し、説明できる。 ③適切なカラー剤の提案をし、ムラなく染め仕上げることができる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.ヘアカラーの種類と染毛のメカニズムを理解する 2.色の基本と毛髪のレベルとアンダートーンを理解する 3.アルカリカラー(パーズン毛)の塗布① 4.アルカリカラー(パーズン毛)の塗布② 5.アルカリカラー(パーズン毛)の塗布③ 6.ブリーチカラーの塗布① 7.ブリーチカラーの塗布② 8.酸性カラー(ヘアマニキュア)の塗布 9.ファッションカラー(ダブルカラー)の塗布① 10.ファッションカラー(ダブルカラー)の塗布② 11.ファッションカラー(ホイルワーク)の塗布① 12.ファッションカラー(ホイルワーク)の塗布② 13.作品作成のデザイン① 14.作品作成のデザイン② 15.試験解説 		
準備学習	毎授業の疑問点はその場で確認し、理解し次回の授業に臨んでください。		
教科書・教材等	美容実習①・美容技術理論①・配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	実習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	ヘアカラーはヘアデザインを作るうえで不可欠といえると思います。多くの年代の方々にファッションを提案するには技術だけではなく、色彩原理、カラーコーディネート、カウンセリングもなどの総合力が必要です。カラーリングを楽しみながら取り組んでください。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	美容師科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	美容実習(サロンワーク応用)	担 当 教 官 名	久保・石井
対 象 学 生	1年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ(15週)
授業のキーワード	前期の基本理念を理解し、主体的に考えて行動できるようになる。		
授業の概要 及び到達目標	<p>前期で身に付けた美容業界の基本理念やアシスタント技術・知識を活用し、即戦力のアシスタントに必要な行動ができるよう、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①チームでサロン運営ができる。 ②カウンセリングができる。 ③お客様へ提案することができる。 ④自分のなりたい美容師像・働きたいサロンイメージを具現化する。</p>		
講義計画・内容	<p>1.前期の振り返り+サロン選び(人事として) 2.プレゼンについて 3.商品プレゼン(フィードバック) 2分 4.女性像やファッションについて 5.カットレッスン 6.好きなインフルエンサープレゼン 2分 7.ブリーチワーク 8.カラー選定レッスン 9.メンズカット 10.女性像やファッションについて 11.ウィッグ作成+プレゼン最終確認 12.ウィッグ作成+プレゼン最終確認 13.ウィッグ作成+プレゼン最終確認 14.ウィッグ作成+プレゼン最終確認 15.定期試験 解答解説</p>		
準備学習	授業内の疑問は積極的に確認すること。 毎授業の復習を実施し、次回授業に備える。		
教科書・教材等	配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	実習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	お客様が何を求めている、どのようにするとイメージを形にすることができるのかをポイントに授業を進めていきます。自己がお客様なら何をして頂くと嬉しいと感じるかを考えていくとイメージしやすいと思います。積極的に授業に参加してください。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	美容師科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	美容実習(シャンプーⅡ)	担当教官名	清原・石井
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ(15週)
授業のキーワード	お客様のイメージを形にできるようになる。		
授業の概要 及び到達目標	<p>お客様の要望を受け施術から仕上げまでを行い、お客様の満足を頂ける技術、知識を身に付ける為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①ブローができる。 ②ヘアアレンジができる。 ③アイロン、コテのスタイリングができる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.ヘッドスパ理論と技術(頭皮の診断、毛髪の診断など) 2.ヘッドスパ実践① 3.ヘッドスパ実践② 4.ヘッドスパ実践③ 5.アイロン、コテの基本、整髪剤の使い方をロングウィッグで実習 6.コテで下巻きしてのヘアアレンジ基本など 7.ヘアアレンジ撮影 8.希望に沿ったヘアアレンジ(似合わせ) 9.希望に沿ったスタイリング(似合わせ) 10.シャンプーからスタイリング(60分) 11.シャンプーからアレンジ仕上げ(60分) 12.モニターチェック実習① 13.モニターチェック実習② 14.総復習 15.定期試験 解答解説</p>		
準備学習	<p>シャンプーの持ち物以外で、その都度必要になってくるものはしっかり確認し、持参すること。 毎授業で出た課題はしっかり取り組むこと。</p>		
教科書・教材等	美容実習・美容技術理論・配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	実習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>前期に学んだことを活かして、技術の向上をしていきましょう。 シャンプーだけでなく、最後のフィニッシュまでお客様の満足度を考えた施術をしていきましょう。</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	美容師科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	美容実習(カット&ブローⅡ)	担当教官名	鎌部・石井
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ(15週)
授業のキーワード	課題となるスタイルを“正しい姿勢”で正しいフォルムにカットできるようになる。		
授業の概要 及び到達目標	<p>前期で学習したテクニックを活かしてのカット&ブローを理解することと、正しい姿勢で実践できるようになることはプロになるために必須です。下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①展開図を理解し、平面を立体に変換できる。 ②基礎から応用の効いたカットができるようになる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.コンテスト対策① 2.コンテスト対策② 3.レイヤーカット① 4.レイヤーカット② 5.レイヤーカット③ 6.レイヤーカット④ 7.レイヤーカット⑤ 8.レイヤーカット⑥ 9.レイヤーカット⑦ 10.メンズカット① 11.メンズカット② 12.定期試験 解答解説 13.進級制作① 14.進級制作② 15.進級制作③</p>		
準備学習	定期試験に向けて、日々の復習を徹底すること		
教科書・教材等	教科書:美容実習① 教材:カット道具一式		
授業の形式 教育機器の活用	実習		
成績評価の方法	9月16日コンテスト50% 11月29日定期試験50%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	前期で学習したテクニックの応用編です。 シザーズの取り扱いに注意しながら、意欲的に学び技術を向上させてください。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	美容師科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	美容実習(ワインディングⅡ)	担 当 教 官 名	山田・依田
対 象 学 生	1年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ(15週)
授業のキーワード	国家試験の技術を身につける		
授業の概要 及び到達目標	<p>国家試験技術を身に付ける為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①正しいスタイル構成を理解する。 ②正しい巻き方ができる。 ③正確なブロッキングができる。 ④正確な引き出し角度とシェープができる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.全頭25分で巻き上げる 2.全頭24分で巻き上げる 3.全頭23分で巻き上げる 4.全頭22分で巻き上げる 5.全頭21分で巻き上げる 6.全頭20分で巻き上げる 7.全頭ブロッキング込み25分で巻き上げる 8.全頭ブロッキング込み24分で巻き上げる 9.全頭ブロッキング込み23分で巻き上げる 10.全頭ブロッキング込み22分で巻き上げる 11.全頭ブロッキング込み21分で巻き上げる 12.全頭ブロッキング込み20分で巻き上げる 13.全頭ブロッキング込み20分で巻き上げる 14.全頭ブロッキング込み20分で巻き上げる 15.定期試験 解答解説</p>		
準備学習	定期試験は毎授業の小テストがベースになるので復習をしっかりと行うこと。		
教科書・教材等	美容技術理論・美容実習		
授業の形式 教育機器の活用	実習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>国家試験課題です。前期で学んだ知識と技術を活かして取り組んで下さい。 また、疑問点をそのままにしておかず分からないところがあれば積極的に質問してください。</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	美容師科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	美容実習(オールウェーブⅠ)	担 当 教 官 名	井上・六川
対 象 学 生	1年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ(15週)
授業のキーワード	国家試験の技術を身につける。		
授業の概要 及び到達目標	<p>オールウェーブに構成を確実に理解し、正しい姿勢で実践できるようになることは国家試験合格には必須です。下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①ウェーブの構成手順を理解し、ローションの使い方・ウィッグの保存が適切にできる。</p> <p>②カールの作り方を理解し適切なピンングができるようになる。</p> <p>③リッジを作れるようになる</p> <p>④正しい姿勢でのウェーブテクニックを身につける。</p>		
講義計画・内容	<p>①授業オリエンテーション、ウェーブ構成手順、理論、ローションの使い方、ウェーブ練習</p> <p>②ウェーブの練習、スカルプチュアカールのデモ→練習</p> <p>③馬蹄形のデモ→練習、1～2段目の練習</p> <p>④2段目までの練習、ウェーブ・リッジの練習、3段目の作り方</p> <p>⑤1～3段目21分→練習(各7分)</p> <p>⑥1～3段目15分</p> <p>⑦中間試験</p> <p>⑧事前パーマ仕込み処理</p> <p>⑨ウェーブ・カールスペースをあけて1～5段目の練習→30分</p> <p>⑩両サイドのウェーブ確認、4段目の構成、理解、習得(リフトカール・ウェーブとのバランス)</p> <p>⑪5段目の構成理解(逆リフトカール、ウェーブとのバランス)</p> <p>⑫1～5段目を3段目のカールとウェーブで33分で仕上げる。</p> <p>⑬1～5段目を3段目のカールとウェーブで30分で仕上げる。</p> <p>⑭1～5段目を30分で仕上げる。</p> <p>⑮定期試験 解答解説</p>		
準備学習	カールの名称を理解しておく		
教科書・教材等	美容実習①・美容技術理論①		
授業の形式 教育機器の活用	実習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	ウェーブの構成・手順の理解は非常に重要です。何となくではなく確実にできるように疑問点は積極的に確認して下さい。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	美容師科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	衛生管理Ⅱ	担当教官名	金岡 怜
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ(15週)
授業のキーワード	国家試験課題である衛生管理を理解する。		
授業の概要 及び到達目標	<p>公衆衛生全般について勉強し、理容師・美容師として注意を払わねばならない環境衛生や感染症を学ぶものです。また、理容業・美容業に必要な消毒の意義、目的、関連法令に則した実践を学ぶ為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①感染症を理解し、説明できる。 ②衛生管理技術を理解し、説明できる。 ③衛生管理の実践例を理解し、説明できる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.1編 公衆衛生及び2編 環境衛生の振り返り 2.3編 感染症 1章 感染症の総論 1節 人と感染症 3.2節 病原微生物 4.3節 感染症の予防 5.2章 感染症の各論 1節 理容・美容と感染症・2節 主な感染症 6.3節 具体的な対策の例 7.4編 衛生管理技術 1章 消毒法総論 1節 消毒とは・2節 消毒の意義 8.3節 理容・美容の業務と消毒との関係・4節 消毒法と適用上の注意 9.2章 消毒法各論 1節 理学的消毒法(殺菌法) 10.2節 化学的消毒法(殺菌法)・3節 すぐれた消毒法とその実施上の注意 11.3章 消毒法実習 1節 各種消毒薬 12.2節 理容所・美容所の消毒の実際 13.3節 理容所・美容所の清潔法の実際 5編 衛生管理の実践例 1章 理容所及び美容所における衛生管理要領 2章 理・美容所の自主管理点検表 14.3編 感染症・4編 衛生管理技術・5編 衛生管理の実践例のポイント復習 15.定期試験 解答解説</p>		
準備学習	<p>授業内の疑問は積極的に確認すること。 毎授業の復習を実施し、次回授業に備える。</p>		
教科書・教材等	衛生管理		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>国家試験課題になります。美容はお客様に触れる仕事になります。しっかりと感染症の知識を持つことが大切です。自らが感染源になることの無いよう理解し行動できるようになりましょう。</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	美容師科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	保健Ⅱ	担 当 教 官 名	糟谷 圭吾
対 象 学 生	1年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ(15週)
授業のキーワード	国家試験課題である保健を理解する。		
授業の概要 及び到達目標	<p>頭部、顔部及び頸部を中心に人体の構造、機能について学び、皮膚、毛髪などを科学的に理解する為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①皮膚とその付属器官について詳細を理解し、説明できる。</p> <p>②薬剤が毛髪、皮膚にどのように影響を与えるかを理解し、説明できる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.第2編 皮膚科学 第1章 皮膚の構造 1項～4項</p> <p>2.第1章 皮膚の構造 5項～7項</p> <p>3.第2章 皮膚付属器官の構造</p> <p>4.第3章 皮膚の循環器系と神経系</p> <p>5.第1章～第3章の復習</p> <p>6.第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能 1項～5項</p> <p>7.第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能 6項～11項</p> <p>8.第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健 1項～6項</p> <p>9.第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健 7項～11項</p> <p>10.第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患 1項～5項</p> <p>11.第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患 6項～10項</p> <p>12.第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患 11項～15項</p> <p>13.第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患 16項～19項</p> <p>14.第4章～第6章の復習</p> <p>15.定期試験 解答解説</p>		
準備学習	<p>授業内の疑問は積極的に確認すること。</p> <p>毎授業の復習を実施し、次回授業に備える。</p>		
教科書・教材等	保健		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>国家試験課題になります。美容の業務の特徴から、お客様の頭皮、毛髪、肌の健康管理ができる知識と技術が求められることから大切な授業です。指名される美容のプロを目指すため意欲的に授業に参加してください。</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	美容師科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	美容技術理論 I	担 当 教 官 名	石井 奈摘
対 象 学 生	1年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ(15週)
授業のキーワード	国家試験課題である美容技術理論を理解する。		
授業の概要 及び到達目標	<p>美容に用いられる器具や機械の種類、目的を理解し、その正しい取扱方法を学び美容の基礎的技術理論を実際に即して身に付ける為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①美容理論と美容技術を理解し、説明できる。 ②正しい作業姿勢を理解し、説明できる。 ③人体各部の名称を理解し、説明できる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.美容技術理論①序章美容技術理論を学ぶにあたって・1章美容用具 2.2章シャンプーイング 3.3章ヘアデザイン 4.4章ヘアカッティング 5.5章パーマネントウエービング 6.6章ヘアセッティング 7.7章 ヘアカラーリング 8美容技術理論②8章 エステティック 9.9章 ネイル技術 10.10章メイクアップ 11.11章日本髪 12.12章着付けの理論と技術 13.美容技術理論①のポイント復習 14.美容技術理論②のポイント復習 15.定期試験 解答解説</p>		
準備学習	授業内の疑問は積極的に確認すること。 毎授業の復習を実施し、次回授業に備える。		
教科書・教材等	美容技術理論①、美容技術理論②		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	国家試験課題になります。実技で学んでいる技術の理論を学びます。難しい単語や言い回しが出てきますが、分からないままにせず積極的に質問してください。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	トータルビューティー科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	運営管理	担当教官名	加藤 亜希
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ(15週)
授業のキーワード	国家試験課題である運営管理を理解する。		
授業の概要 及び到達目標	<p>理容業・美容業にもとめられる接客の意義と技術を身につけるとともに、経営管理や労務管理の基本を理解し、運営上の管理手法を学ぶ為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割を理解し、説明できる。 ②人を雇うことの責任や働くうえで求められることを理解し、説明できる。 ③顧客を満足させるサービスとは何か。それをどう実現するかを理解し、説明できる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.第1編 経営者の視点 第1章 経営とは・経営者とは 第1節～第6節 2.第2章 理容業・美容業の経営について 第1節～第4節 3.第3章 資金の管理 第1節～第6節 4.第1編 経営者の視点のポイント復習 5.第2編 人という資源 従業員としての視点 第1章 人という資源 第1節～第3節 6.第1章 人という資源 第4節～第6節 7.第2章 健康・安全な職場環境の実現 第1節～第4節 8.第3章 従業員としての視点から 第1節～第4節 9.第3章 従業員としての視点から 第5節～第6節・第2編のポイント復習 10.第3編 顧客のために 第1章 サービス・デザイン 第1節～第6節 11.第2章 マーケティング 第1節～第4節 12.第2章 マーケティング 第5節～第7節 13.第3章 サービスにおける人の役割 第1節～第7節 14.第3章 サービスにおける人の役割 第8節～第10節・第3編のポイント復習 15.定期試験 解答解説</p>		
準備学習	授業内の疑問は積極的に確認すること。 毎授業の復習を実施し、次回授業に備える。		
教科書・教材等	運営管理		
授業の形式 教育機器の活用	演習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	国家試験課題になります。「経営」や「マネジメント」の視点を持ってもらいたいと思っています。美容業界に入ったときはアシスタントですが、自己の業務がどこに繋がっているのかを理解して行動できている人と理解せずに行動している人では、1年後大きな差に繋がります。楽しみながら授業に取り組んでください。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	トータルビューティー科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	就職講座Ⅱ	担当教官名	石井 奈摘
対象学生	1年	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ(15週)
授業のキーワード	自身を知り、面接対策として自己PRのプレゼンテーションができるようになる。		
授業の概要 及び到達目標	<p>グループワークや自己分析を通して自身のなりたい職種確定できるようになる為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①自己分析を行い自身を、説明できる。 ②プレゼンテーション力を高め、想いを伝えることができる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.自己分析 2.自己分析 3.就職先の選び方 4.就職先の選び方 5.履歴書作成 6.履歴書作成 7.履歴書作成 8.自己プレゼンテーション 9.自己プレゼンテーション 10.自己プレゼンテーション 11.面接に向けて 12.面接に向けて 13.面接に向けて 14.就職フェア 15.定期試験 解答解説 		
準備学習	客観的に自身の強み、弱みを考えてみましょう。		
教科書・教材等	配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	演習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	自己PRのプレゼンや他己分析では積極的に発言し、話す力を付けていきましょう。 また、履歴書やスーツの着こなし等は必ず理解するよう疑問点はその都度解消していきましょう。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	美容師科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	ヘアメイクアップⅡ	担 当 教 官 名	工藤 真紀
対 象 学 生	1年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ(15週)
授業のキーワード	生まれ持った色素に基づく似合う色の知識 ヘアメイクへの活用法 パーソナルカラー検定3級		
授業の概要 及び到達目標	<p>学校の掲げる、職業人教育を通じて社会に貢献する事のできる人材育成を目指し、広く認識されはじめたパーソナルカラーについて学び、様々な顧客ニーズに対応できる力を身に付ける。</p> <p>①パーソナルカラーの基本となる理論(色素と似合う色の関係)を学ぶ ②パーソナルカラーを活用し個性を磨き「自分ブランディング」の大切さを知る ③顧客のニーズに合わせ色素に基づいた似合う色の提案ができるようになる ④パーソナルカラー検定3級に合格を目指す ⑤プロとしての+αの知識を身に付け業界から求められる人材となる</p>		
講義計画・内容	<p>①自己紹介 パーソナルカラー基本・色の三属性と色相環 ②トーン・PCCSによる色表示 トーンマップ作成 ③パーソナルカラーの4シーズンの分類とイメージについて ・ビジュアルカラーージュについて(1)活用法 作り方 ④ビジュアルカラーージュについて(2)作成 ⑤慣用色名 光と色 色覚効果 ⑥似合う色と色素の関係(タイプ別の色素傾向) ⑦自分の色素確認とタイプ予想 ・グループワークにて他の方と色素の違いを確認 ⑧似合う色の見つけ方(1)ドレーピング方法の説明とデモンストレーション ⑨似合う色の見つけ方(2)似合う色と似合わない色の違い ドレーピング簡易診断 ⑩似合う色の見つけ方 (3)ドレーピング簡易診断体験(グループワークにて) ⑪似合う色の活用法(1)タイプ別の傾向 メイク アクセサリー 柄と素材) ⑫似合う色の活用法自分ブランディングについて ⑬検定対策(1) 模擬テスト* 過去問題は講師がコピーを用意 ⑭定期テスト* 問題は講師が用意 ⑮検定対策(2) 模擬テストの解説と検定のポイントについて説明</p>		
準備学習	多くの美容雑誌やポスター、コルトン、映画などを見て、ヘアメイクのイメージパターンを研究しましょう。		
教科書・教材等	メイク道具一式		
授業の形式 教育機器の活用	演習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	ヘアメイクの応用を学ぶ授業です。それぞれのイメージを理解することが重要です。引き出しを多く持つことが、表現力の向上へ繋がります。ひとつひとつの理解をきちんと深めて、着実にステップアップしていきましょう。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	美容師科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	美容総合技術Ⅱ	担 当 教 官 名	岩崎・石井
対 象 学 生	1年	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ(15週)
授業のキーワード	ヘアアレンジの基礎理論を理解し、ヘアスタイルの形成ができるようになる。		
授業の概要 及び到達目標	<p>ヘアアレンジの基本のテクニックを理解し実践することで、幅広く作品撮影ができるようになる為、下記内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①ヘアアレンジのパターンを習得する。 ②作りたいスタイルに応じた工程が選択できる。 ③幅広いスタイルに対応できるようになる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.肌の構造・スキンケア 2.スキンケア・ベースメイク 3.ベースメイク・ポイントメイク・チーク・リップ 4.ベースメイク・眉毛・ローライト・ハイライト 5.ポイントメイク・アイメイク 6.トレンドメイク1時間以内① 7.トレンドメイク1時間以内② 8.ヘアアレンジ① 9.ヘアアレンジ② 10.ヘアアレンジ③ 11.ブライダルヘアアレンジ① 12.ブライダルヘアアレンジ② 13.ブライダルヘアアレンジ③ 14.定期試験対策 15.定期試験</p>		
準備学習	反復練習を行い、基礎の理解を深めて下さい。、		
教科書・教材等	美容技術理論・美容実習 ヘア道具一式		
授業の形式 教育機器の活用	演習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>同じスタイルでも作り方を変えると全く表情が違うスタイルになります。 また、崩れにくく作るということも技術です。 毛質・毛量などを考慮し、スタイリング剤を選択する必要があります。 たくさんの髪に触れて、体験してください。</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	トータルビューティー科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	美容実習(ワインディングⅢ)	担 当 教 官 名	石井 奈摘・依田 友貴恵
対 象 学 生	2年:美容師コース	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ(15週)
授業のキーワード	国家試験の合格基準を理解し、タイム内に規定タイム内に作成できるようになる。		
授業の概要 及び到達目標	<p>国家試験合格レベルの技術を身に付ける為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①衛生の取り扱いを理解し、説明できる。</p> <p>②作品構成を理解し、タイム内に作品作成ができる。</p>		
講義計画-内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.衛生の取り扱いを理解する 2.採点ポイントを理解する 3.ブロックの再確認 4.姿勢と巻き方の再確認 5.上巻きのタイムアップ 6.下巻きのタイムアップ 7.部分ごとにタイムアップ 8.苦手部分の克服① 9.苦手部分の克服② 10.苦手部分の克服③ 11.国家試験規定仕上げる① 12.国家試験規定仕上げる② 13.国家試験規定仕上げる③ 14.国家試験規定仕上げる④ 15.試験解説 		
準備学習	<p>衛生の取り扱いを理解する。</p> <p>採点ポイントを理解する。</p>		
教科書・教材等	配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	実習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>国家試験課題になります。衛生の取り扱い含め正確に理解し作品作成をしてみてください。焦ることなく正確さを重視して授業に取り組んでください。</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	トータルビューティー科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	美容実習(オールウェーブⅡ)	担当教官名	井上 秀浩・六川 直哉
対象学生	2年:美容師コース	履修学期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ(15週)
授業のキーワード	国家試験の合格基準を理解し、タイム内に規定タイム内に作成できるようになる。		
授業の概要 及び到達目標	<p>国家試験合格レベルの技術を身に付ける為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①衛生の取り扱いを理解し、説明できる。</p> <p>②作品構成を理解し、タイム内に作品作成ができる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.衛生の取り扱いを理解する 2.採点ポイントを理解する 3.バランスの強化 4.ウェーブの強化 5.カールの強化 6.部分ごとにタイムアップ① 7.部分ごとにタイムアップ② 8.苦手部分の克服① 9.苦手部分の克服② 10.苦手部分の克服③ 11.国家試験規定仕上げる① 12.国家試験規定仕上げる② 13.国家試験規定仕上げる③ 14.国家試験規定仕上げる④ 15.試験解説 		
準備学習	衛生の取り扱いを理解する。 採点ポイントを理解する。		
教科書・教材等	配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	実習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	国家試験課題になります。衛生の取り扱い含め正確に理解し作品作成をしていきましょう。焦ることなく正確さを重視して授業に取り組んでください。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	トータルビューティー科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	美容実習(国試カット)	担 当 教 官 名	井上 秀浩・六川 直哉
対象学生	2年:美容師コース	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ(15週)
授業のキーワード	国家試験の合格基準を理解し、タイム内に規定タイム内に作成できるようになる。		
授業の概要 及び到達目標	<p>国家試験合格レベルの技術を身に付ける為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①衛生の取り扱いを理解し、説明できる。</p> <p>②作品構成を理解し、タイム内に作品作成ができる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.衛生の取り扱いを理解する 2.構成及びブロッキングを理解する 3.作業手順の導入① 4.作業手順の導入② 5.作業手順の導入③ 6.全体手順の復習 7.全行程のスピードアップ① 8.全行程のスピードアップ② 9.採点ポイントを理解する 10.全行程27分でカットする 11.全行程25分でカットする 12.全行程22分でカットする 13.全行程20分でカットする 14.全行程通して20分で残り毛が無いようにカットする 15.試験解説 		
準備学習	<p>衛生の取り扱いを理解する。</p> <p>採点ポイントを理解する。</p>		
教科書・教材等	配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	実習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>国家試験課題になります。衛生の取り扱い含め正確に理解し作品作成をしていきましょう。焦ることなく正確さを重視して授業に取り組んでください。</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	トータルビューティー科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	美容技術理論Ⅱ	担 当 教 官 名	井上 秀浩・六川 直哉
対象学生	2年:美容師コース	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ(15週)
授業のキーワード	国家試験課題である美容技術理論を理解する。		
授業の概要 及び到達目標	<p>美容に用いられる器具や機械の種類、目的を理解し、その正しい取扱方法を学び美容の基礎的技術理論を実際に即して身に付ける為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①美容理論と美容技術を理解し、必要な技術ができる。 ②イメージを形にする事ができる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.カット(ポブ) ホイルワーク ウィーピングの基礎 ピッチとチップと深さ 右 黒 ① 2.ブロー ホイルワーク ウィーピングの基礎 ピッチとチップと深さ 左 黒 ① 3.カット(前髪カット) ホイルワーク スライシングの効果と用途 黒① 4.ヴァレーヤージュの仕方1(バックコーミング)の仕上がりの違い黒② 5.ヴァレーヤージュの仕方2(エアータッチ)の仕上がりの違い黒② 6.オンカラー(アンダートーンの違いによるカラーの出方の違い) 黒① 左2タッチ 7.デザインカラー ユニコーンカラー、パネルごとの色を変える カールアイロン 8.デザインカラー ユニコーンカラー、パネル中での色を変える カールアイロン 9.店販におけるコミュニケーションの取り方 10.サロンワーク シャンプーを覚える バックシャン1シャンプー 11.サロンワーク ブローを覚える ドライの仕方、ブローの仕方 12.サロンワーク 動きを考える アシスタント、スタイリストの動きとアイコンタクト 13.サロンワーク 動きを考える アシスタント、スタイリストの動きとアイコンタクト 14.試験練習(サロンワークの動き、時間、配置) 15.試験 サロンワーク (アシスタントの動き方と意識)</p>		
準備学習			
教科書・教材等			
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>作品作成を楽しみながら学んでいきましょう。作品イメージを作成していくために必要な材料、機材などを選定できるようになることは重要です。本講義では実践的に授業を行っていきますので意欲的に授業に臨んでください。</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	トータルビューティー科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	保健Ⅲ	担 当 教 官 名	糟谷 圭吾
対象学生	2年:美容師コース	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ(15週)
授業のキーワード	国家試験課題である保健を理解する。		
授業の概要 及び到達目標	<p>頭部、顔部及び頸部を中心に人体の構造、機能について学び、皮膚、毛髪などを科学的に理解する為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①人体の構造や機能について理解し、説明できる。 ②皮膚科学について理解し、説明できる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.第1編 人体の構造及び機能 第1章・第2章 2.第1編 人体の構造及び機能 第3章・第4章 3.第1編 人体の構造及び機能 第5章・第6章 4.第1編 人体の構造及び機能 第7章・第8章 5.第1編の復習① 6.第1編の復習② 7.第2編 皮膚科学 第1章・第2章 8.第2編 皮膚科学 第3章・第4章 9.第2編 皮膚科学 第5章・第6章 10.第2編の復習① 11.第2編の復習② 12.保健全般の復習① 13.保健全般の復習② 14.保健全般の復習③ 15.試験解説</p>		
準備学習	<p>授業内の疑問は積極的に確認すること。 毎授業の復習を実施し、次回授業に備える。</p>		
教科書・教材等	保健		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>国家試験課題になります。これから学ぶ「保健」は「健康を保つ」という意味になります。美容の職務を通じて、人々の精神的、社会的健康に貢献することができる仕事になります。是非意欲的に取り組んでください。</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	トータルビューティー科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	化粧品化学 I	担 当 教 官 名	旭 里 栄 子
対 象 学 生	2年:美容師コース	履 修 学 期	前 期
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ(15週)
授業のキーワード	国家試験課題である化粧品化学を理解する。		
授業の概要 及び到達目標	<p>理容・美容の施術の際に使用する化粧品を正しく取り扱うために必要な知識を学ぶ為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①化粧品概論を理解し、説明できる。 ②化粧品用原料を理解し、説明できる。 ③基礎化粧品を理解し、説明できる。 ④メイクアップ用化粧品を理解し、説明できる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.1章 化粧品概論 1節・2節・3節・4節 2.2章 化粧品用原料 1節 3.2章 化粧品用原料 2節・3節 4.2章 化粧品用原料 4節・5節 5.2章 化粧品用原料 6節・7節 6.2章 化粧品用原料 8節・9節 7.2章の復習 8.2章の復習 9.3章 基礎化粧品 1節・2節 10.3章 基礎化粧品 3節・4節 11.3章の復習 12.4章 メイクアップ用化粧品 1節・2節 13.4章 メイクアップ用化粧品 3節・4章の復習 14.4章の復習 15.試験解説</p>		
準備学習	授業内の疑問は積極的に確認すること。 毎授業の復習を実施し、次回授業に備える。		
教科書・教材等	化粧品化学		
授業の形式 教育機器の活用	演習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	国家試験課題になります。化粧品はお客様の髪、肌、爪などさまざまな部位において直接使用するものになります。お客様は化粧品を扱う美容のプロであると信頼して技術を受けています。わからない点は確認頂き、積極的に授業に参加してください。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	トータルビューティー科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	文化論 I	担 当 教 官 名	石井 奈摘
対象学生	2年:美容師コース	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ
授業のキーワード	国家試験課題である文化論を理解する。		
授業の概要 及び到達目標	<p>理容・美容の施術に必要な美的感覚と表現力を養うとともに、歴史を学習しヘアデザインに役立てる為、以下に示す内容を理解し、説明できることを到達目標に講義を進める。</p> <p>①日本の理容業・美容業の歴史 ②日本のファッション文化史</p>		
講義計画・内容	<p>1.第1章 第1節総論 第2章日本の理容業・美容業の歴史 第1節 2.第2章 日本の理容業・美容業の歴史 第2節・第3節 3.第2章 日本の理容業・美容業の歴史 第3節・第4節 4.第3章 ファッション文化史 日本編 第1節・第2節 5.第3章 ファッション文化史 日本編 第2節・第3節 6.第3章 ファッション文化史 日本編 第3節・第4節 7.第3章 ファッション文化史 日本編 第5節 8.第3章 ファッション文化史 日本編 第5節 9.第3章 ファッション文化史 日本編 第6節 10.第3章 ファッション文化史 日本編 第6節・第7節 11.第3章 ファッション文化史 日本編 第7節・第8節 12.第3章 ファッション文化史 日本編 第8節・第9節 13.第3章 ファッション文化史 日本編 第9節 14.第1章～第3章第9節まで復習 15.試験・解説</p>		
準備学習	授業内の疑問は積極的に確認すること。 毎授業の復習を実施し、次回授業に備える。		
教科書・教材等	文化論		
授業の形式 教育機器の活用	座学・演習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	国家試験課題です。日本の歴史の中にもみる理容・美容が、どのような時代背景の中で、どのような美しさを求めたかを知ることができます。これらの知識は、今求められている「美しさ」の意味を知る手掛かりになりますので、積極的に授業に参加してください。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	トータルビューティー科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	就職講座Ⅲ	担 当 教 官 名	石井 奈摘
対象学生	2年:美容師コース	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ(15週)
授業のキーワード	業界理解を深め業界に必要な人間力を高める。		
授業の概要 及び到達目標	<p>接客業に必要なサービスマインドを身につける。 美容師・ヘアメイクアーティスト・ブライダルヘアメイクアーティストの業界理解を深め、業界で必要なマインドを身に付け主体的に行動できるようになる為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①学生が希望する進路に必要なスキル・知識を得て、自らで考え、行動し、就職活動に活かすことができる。 ②業界研究を実施し美容業界の理解し、説明できる。 ③社会人として大切なマナー、一般常識の理解を得て、行動に責任をもてるようになる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.希望職種に合わせた業界理解・求められる人材を理解する 2.自分が興味のある職種の求人の探し方① 3.自分に合う職種の求人の探し方② 4.就職ガイダンスに臨むにあたって(礼儀作法・第1印象について) 5.就職ガイダンスに臨むにあたって(礼儀作法・第2印象について)(実践) 6.学生それぞれの希望職種に合わせた選考事例研究 7.内定とは、内定礼状の書き方、封筒の書き方 8.一般教養① 9.一般教養② 10.一般教養③ 11.一般教養④ 12.一般教養⑤ 13.仕事の基本 ホウレンソウ 14.1～13回目の総復習 15.試験解説</p>		
準備学習	<p>授業内の疑問は積極的に確認すること。 毎授業の復習を実施し、次回授業に備える。</p>		
教科書・教材等	配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	演習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>美容師免許を活かして仕事をする為に、職業を理解することは大切です。コミュニケーションやプレゼンテーションといった力を高めていくことを本講義の中では重視していきます。楽しみながら成長できるように進めていきますので、授業に積極的に取り組んで下さい。</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	トータルビューティー科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	美容総合技術Ⅲ	担 当 教 官 名	金岡 怜・石井 奈摘
対象学生	2年:美容師コース	履 修 学 期	前期
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ(15週)
授業のキーワード	美容業界で必要な知識・技術を磨き創造力を高める。		
授業の概要 及び到達目標	<p>業界で必要とされる知識・技術を学ぶ為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①1年生で身に付けた知識・技術をよりブラッシュアップする。 ②目指す業界のニーズを理解し、説明できる。 ③自分のイメージを、より忠実に表現ができる。 ④作品プレゼンテーションし、イメージを伝えられる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.カウンセリングからの作品作成① 2.カウンセリングからの作品作成② 3.カウンセリングからの作品作成③ 4.作品作成、プレゼンテーション① 5.作品作成、プレゼンテーション② 6.作品作成、プレゼンテーション③ 7.テーマ別作品作成① 8.テーマ別作品作成② 9.テーマ別作品作成③ 10.テーマ別作品作成④ 11.テーマ別作品作成⑤ 12.作品作成、プレゼンテーション⑤ 13.作品作成、プレゼンテーション⑥ 14.作品作成、プレゼンテーション⑦ 15.試験解説</p>		
準備学習	<p>授業内の疑問は積極的に確認すること。 テキストを事前確認して授業に参加すること。</p>		
教科書・教材等	配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	演習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>作品作成を楽しみながら学んでいきましょう。自己作品を撮影し記録に残すことは今後の成長や就職活動にも重要になります。本講義では創作する為にどんな点に意識をしたり、どんなものからイメージ作成をするかなども伝えていきますので意欲的に授業に臨んでください。</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	トータルビューティー科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	美容実習(国家試験課題)	担当教官名	六川・井上
対象学生	2年:美容師コース	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ(15週)
授業のキーワード	国家試験合格を確実なものにする。		
授業の概要 及び到達目標	<p>国家試験合格へ向けて衛生及び技術の重要項目を理解しできるようになるため、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①衛生ポイントを理解し習得する。 ②実技のポイントを理解し習得する。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.国家試験の概要を理解する。 2.各科目の衛生及び技術のポイントを理解する① 3.各科目の衛生及び技術のポイントを理解する② 4.各科目の衛生及び技術のポイントを理解する③ 5.各科目の衛生及び技術のポイントを理解する④ 6.各科目の衛生及び技術のポイントを理解する⑤ 7.国家試験課題の確認 8.衛生及び実技を試験基準で実施① 9.衛生及び実技を試験基準で実施② 10.衛生及び実技を試験基準で実施③ 11.苦手項目の克服① 12.苦手項目の克服② 13.苦手項目の克服③ 14.模擬試験 15.試験解説 		
準備学習	授業内の疑問は積極的に確認すること。 毎授業の復習を実施し、次回授業に備える。		
教科書・教材等	国家試験課題教材一式・配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	実習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	国家試験課題になります。国家試験合格へのまとめになります。わからない点は確認頂き、積極的に授業に参加してください。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	トータルビューティー科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	国家試験対策	担 当 教 官 名	井上・六川・山田
対 象 学 生	2年:美容師コース	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	選択必修	授業回数	90コマ(15週)
授業のキーワード	国家試験合格を確実なものにする。		
授業の概要 及び到達目標	<p>国家試験合格へ向けて各科目の採点項目を理解できるようになるため、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①技術の採点項目を理解し作品作成できるようになる。</p> <p>②筆記科目のポイントを理解できるようになる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.実技の採点項目を理解する 2.筆記課目の括り及び問題数の再確認 3.自身のレベル確認し課題点の克服① 4.自身のレベル確認し課題点の克服② 5.自身のレベル確認し課題点の克服③ 6.試験当日の流れを理解する 7.模擬試験① 8.模擬試験② 9.苦手項目の克服① 10.模擬試験③ 11.模擬試験④ 12.苦手項目の克服② 13.模擬試験⑤ 14.模擬試験⑥ 15.試験解説 		
準備学習	<p>授業内の疑問は積極的に確認すること。</p> <p>毎授業の復習と過去問題の予習を実施し、次回授業に備える。</p>		
教科書・教材等	国家試験課題教材一式・配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	演習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>国家試験課題になります。国家試験合格へのまとめになります。わからない点は確認頂き、積極的に授業に参加してください。</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	トータルビューティー科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	衛生管理Ⅲ	担 当 教 官 名	糟谷 圭吾
対 象 学 生	2年:美容師コース	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ(15週)
授業のキーワード	国家試験課題である衛生管理を理解する。		
授業の概要 及び到達目標	<p>衛生管理全般の復習をし国家試験合格へ向け、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①感染症を理解し、説明できる。 ②衛生管理技術を理解し、説明できる。 ③衛生管理の実践例を理解し、説明できる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.公衆衛生の復習① 2.公衆衛生の復習② 3.環境衛生の復習① 4.環境衛生の復習② 5.感染症の復習① 6.感染症の復習② 7.衛生管理技術の復習① 8.衛生管理技術の復習② 9.国家試験対策① 10.国家試験対策① 11.国家試験対策② 12.国家試験対策③ 13.国家試験対策④ 14.国家試験対策⑤ 15.試験解説 		
準備学習	授業内の疑問は積極的に確認すること。 毎授業の復習を実施し、次回授業に備える。		
教科書・教材等	衛生管理		
授業の形式 教育機器の活用	演習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	国家試験課題になります。国家試験合格へのまとめになります。わからない点は確認頂き、積極的に授業に参加してください。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	トータルビューティー科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	美容技術理論Ⅲ	担 当 教 官 名	井上 秀浩
対 象 学 生	2年:美容師コース	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ(15週)
授業のキーワード	創造力を高め、より豊かな表現ができるアーティストになる。		
授業の概要 及び到達目標	美容業界で必要とされる知識・技術を学び、プロフェッショナルに近づく為、下記の内容を到達目標に講義を進める。 ①これまでに身に付けた知識・技術をよりブラッシュアップする。 ②ゴールを明確にイメージし、逆算してヘアメイクの施術ができるようにする。 ③感性を高め、より人の心に響く作品を作ることができる。		
講義計画・内容	1.短時間でできる実践向けヘアアレンジ① 2.短時間でできる実践向けヘアアレンジ② 3.短時間でできる実践向けヘアアレンジ③ 4.短時間でできる実践向けヘアアレンジ④ 5.トレンド和装ヘアアレンジ 6.レトロヘアアレンジ 7.ヘアアクセサリとのバランス 8.中間試験 9.国家試験対策① 10.国家試験対策② 11.国家試験対策③ 12.国家試験対策④ 13.国家試験対策⑤ 14.国家試験対策⑥ 15.試験解説。		
準備学習	制作をするにあたって、観たものや感じたことを振り返りながら構想を練り、必要な道具は事前に準備しておきましょう。		
教科書・教材等	テキスト、配布プリント		
授業の形式 教育機器の活用	実習形式		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	作品制作を通して、美容業界に必要な不可欠な感性を高め、センスを磨いていきましょう。 普段から「良い」接客や刺激を受け、肌で直接感じる事が一番効果的です。 「表現すること」に楽しみを見出せるような授業になっていますので意欲的に取り組んでください。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	トータルビューティー科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	化粧品化学Ⅱ	担当 教 官 名	旭 里 栄 子
対 象 学 生	2年:美容師コース	履 修 学 期	後 期
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ(15週)
授業のキーワード	国家試験課題である化粧品化学を理解する。		
授業の概要 及び到達目標	<p>理容・美容の施術の際に使用する化粧品を正しく取り扱うために必要な知識を学ぶ為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①頭皮・毛髪用化粧品を理解し、説明できる。 ②芳香製品と特殊化粧品を理解し、説明できる。 ③化粧品化学全般を理解し、説明できる。</p>		
講義計画・内容	<p>1.化粧品化学 1章～4章復習 2.5章 頭皮・毛髪用化粧品 1節・2節 3.5章 頭皮・毛髪用化粧品 3節・4節 4.5章 頭皮・毛髪用化粧品 5節・5章の復習 5.6章 芳香製品と特殊化粧品 1節・2節 6.国家試験対策① 7.国家試験対策② 8.国家試験対策③ 9.国家試験対策④ 10.国家試験対策⑤ 11.国家試験対策⑥ 12.国家試験対策⑦ 13.国家試験対策⑧ 14.国家試験対策⑨ 15.試験解説</p>		
準備学習	授業内の疑問は積極的に確認すること。 毎授業の復習を実施し、次回授業に備える。		
教科書・教材等	化粧品化学		
授業の形式 教育機器の活用	演習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	国家試験課題になります。国家試験合格へのまとめになります。わからない点は確認頂き、積極的に授業に参加してください。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	トータルビューティー科	授業科目区分(基専)	専門基礎分野
授業科目名	文化論Ⅱ	担 当 教 官 名	石井 奈摘
対 象 学 生	2年:美容師コース	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ(15週)
授業のキーワード	国家試験課題である文化論を理解する。		
授業の概要 及び到達目標	<p>理容・美容の施術に必要な美的感覚と表現力を養うとともに、歴史を勉強しヘアデザインに役立てる為、以下に示す文化論の全般を理解し、説明できることを到達目標に講義を進める。</p> <p>①日本の理容業・美容業の歴史 ②日本のファッション文化史 ③西洋のファッション文化史 ④礼装の種類</p>		
講義計画・内容	<p>1.第4章 ファッション文化史 西洋編 第1節・第2節・第3節 2.第4章 ファッション文化史 西洋編 第4節・第5節 3.第4章 ファッション文化史 西洋編 第6節・第7節 4.第4章 ファッション文化史 西洋編 第8節・第9節 5.第4章 ファッション文化史 西洋編 第10節・第11節 6.第4章 ファッション文化史 西洋編 第12節・第13節 7.第4章 ファッション文化史 西洋編 第14節・第15節・第16節 8.第4章 ファッション文化史 西洋編 復習 9.第5章 礼装の種類 第1節・第2節 10.総復習 11.総復習 12.国家試験対策① 13.国家試験対策② 14.国家試験対策③ 15.試験解説</p>		
準備学習	授業内の疑問は積極的に確認すること。 毎授業の復習を実施し、次回授業に備える。		
教科書・教材等	文化論		
授業の形式 教育機器の活用	座学・演習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>国家試験課題です。わからない点は確認頂き、積極的に授業に参加してください。</p> <p>歴史、文化と美容との関わり合いを認識することで施術者としてさらに成長することができます。</p> <p>美容技術理論との組み合わせも意識して国家試験合格に向け理解と知識を確実にしてください。</p>		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	トータルビューティー科	授業科目区分(基専)	基礎分野
授業科目名	就職講座Ⅳ	担 当 教 官 名	石井・柏木
対 象 学 生	2年:美容師コース	履 修 学 期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ(15週)
授業のキーワード	就職活動、内定、一般常識、マナー		
授業の概要 及び到達目標	<p>①学生が希望する進路に必要なスキル・知識を得て、自らで考え、行動し、就職活動に活かすことができる</p> <p>②社会人として大切なマナー、一般常識の理解を得て、行動に責任をもてるようになる</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.学生それぞれの希望職種に合わせた業界理解・求められる人材とは？① 2.学生それぞれの希望職種に合わせた業界理解・求められる人材とは？② 3.学生それぞれの希望職種に合わせた選考事例研究① 4.学生それぞれの希望職種に合わせた選考事例研究② 5.内定後の流れについて・新社会人基礎力講習① 6.内定後の流れについて・新社会人基礎力講習② 7.内定後の流れについて・新社会人基礎力講習③ 8.受験先、内定先とのLINE・mailのやり取り 9.内定先・希望企業研究① 10.内定先・希望企業研究② 11.内定先・希望企業研究③ 12.一般常識① 13.一般常識② 14.試験告知・復習 15.試験解説 		
準備学習	授業内の疑問は積極的に確認すること。 毎授業の復習を実施し、次回授業に備える。		
教科書・教材等	授業内で配布するプリント		
授業の形式 教育機器の活用	座学		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	全員が就職内定を勝ち取れるように講義を進めていきます。また、全員が内定を勝ち取ってもそこで学生生活が終わるわけではありません。企業研究や一般常識を身につけ京都医健の学生は素晴らしいと業界に思ってもらえるように進めていきますので、分からないことや気になることがあった場合、積極的に質問してください。		

令和 6 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	トータルビューティー科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	美容総合技術Ⅳ	担当教官名	田村・石井
対象学生	2年:美容師コース	履修学期	後期
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ(8週)
授業のキーワード	美容業界で必要な知識・技術を磨き創造力を高める。		
授業の概要 及び到達目標	美容業界で必要とされる知識・技術を学ぶ為、下記に示す内容を到達目標に講義を進める。 ①1年生で身に付けた知識・技術をよりブラッシュアップする。 ②目指す業界のニーズを理解し、説明できる。		
講義計画・内容	1.コンテスト準備 2.コンテスト準備 3.着付け① 4.着付け② 5.着付け③ 6.着付け(ヘアメイク→着付け→撮影) 7.特殊メイク(5週目でも可) 8.試験解説 9.国家試験対策 10.国家試験対策 11.国家試験対策 12.国家試験対策 13.国家試験対策 14.国家試験対策 15.国家試験対策		
準備学習	制作をするにあたって、観たものや感じたことを振り返りながら構想を練り、必要な道具は事前に準備しておきましょう。		
教科書・教材等	メイク道具一式		
授業の形式 教育機器の活用	演習		
成績評価の方法	定期試験70% 小テスト(出席点含む)30%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	作品制作を通して、美容業界に必要な不可欠な感性を高め、センスを磨いていきましょう。 普段から「良い」接客や刺激を受け、肌で直接感じる事が一番効果的です。 「表現すること」に楽しみを見出せるような授業になっていますので意欲的に取り組んでください。		